

- 令和3年度学校評価（高等学校）-

学校評価（高等学校）

教育目標（誠実な人間、良き社会人の育成）

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	学校としての反省・改善策	評価点	意見等
1	教育目標 本校の教育目標「誠実な人・よき社会人の育成」「清い心・たゆまぬ努力」を達成するための取組みができています。	A	教員全員で教育目標達成のため、生徒のみならず保護者に対しても熱意を持って、丁寧に関わっている。	A	・サレジオの教育目標の周知徹底は、生徒だけでなく保護者に対しても強力に進めるべきである。 ・カトリック学校の教育の特長を子供たちの成長過程の中で伝えることは、何十年経っても心に残り続けるので是非生かしていただきたい。
2	宗教指導 本校はカトリック学校として全ての教育活動を通じ、その使命を果たしている。	A	イエス・キリストの愛の教えを根幹に置き、生徒の発達段階や時代の変化に適切に対応する宗教行事や宗教教育を行った。「宗教」の授業のみならず、学校長や宗教部の教員が担当する朝礼の話や、毎日の朝夕のSHRにおいても担任が折に触れ、キリスト教的価値観の育成に努めている。10月のロザリオの月には連日50名近い生徒が昼休みの祈りに参加するなど、全生徒の約半数が一度は参加し、他者のためにも祈る姿勢を自然と身につけている。	A	自己評価に同意
3	教育課程 本校の教育課程は教育目標を達成するために、適切な工夫がされている。	A	新学習指導要領を見据えて、教育課程を再検討し、試行もしてきたためスムーズに学習に取り組むことができています。3コース全ての生徒たちの進路達成のためより充実した教育課程を編成することができた。	A	・1月半ばより家庭学習に入ったが、コロナ禍もあり家で時間を持て余しているように感じるので、卒業までの間にオンラインでも良いので何か講義があればよかったと感じる。
4	評価・認定 本校では生徒の努力の結果を正当に評価し、公正な単位認定が行われている。	A	2022年度から高校でも始まる観点別での評価を見据えながら、生徒たちの力がつき、そして公平な評価ができるように毎年検討を重ね工夫を積み重ねている。教科間のテストの難易度の違いなどもその都度調整も行った。	A	自己評価に同意
5	教科指導 本校では落ち着いた環境で生徒の学力をのばすための授業が行われている。	A	各教科での連携、学年間での情報交換や意見交換を行うことによって、生徒の様子を把握することができた。生徒の様子を把握することにより、個々の特性に合わせた授業を展開するように努めている。授業アンケートもオンライン上で年2回行い、生徒の意見も反映させながら授業改善に努めることができた。	A	・コロナ禍の中、いち早くリモート授業が行われていた様子をTVで拝見したが、生徒、保護者の不安を取り除くことができたと思う。
6	授業研修 教員の資質向上のため、授業研修や校内研修等が適切に行われている。	A	各コースごとにより特性を出すために2021年度は各コースでの研究授業、教科研究を行った。ICTの環境も整備されたため、電子黒板を利用した授業方法やクロームブックの授業中での有効利用など様々なところで改善を図ることができた。また、年2回の公開授業週間では各校種の授業をお互いに見せ合い、意見を交換することによって授業改善に努めることができた。	A	・コロナ禍で校外での研修機会が減っているのではないかとと思うが、構内での研修を強化するなど対策願いたい。
7	学級経営 本校では、学級活動や個別面談などを通じ生徒・保護者の意見が掌握されている。	A	各担任、各教科、各部活の顧問が綿密にコミュニケーションをとり、生徒、保護者の意見掌握を努めている。教員一人ひとりに貸与されたスマートフォンやPCを活用し、家庭とのスムーズな連携もとれている。	A	自己評価に同意
8	生活指導 生徒を正しく導くために教師が共通理解をもち、生活指導に取り組んでいる。	A	ドン・ボスコの予防教育法を常に念頭に置き、生徒自身が愛されていると納得できるように丁寧な指導を心がけている。女子の制服に2種類のパンツスタイルを導入したことにとどまらず、時代の要請に合わせた制服や規則の見直しも検討中である。SNSの問題等、時代に即した生徒指導として外部講師による講演なども導入して取り組んでいる。	A	自己評価に同意
9	進路指導 生徒の進路達成のために、適切な指導と学力養成が行われている。	A	前年度の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休校期間に、一気に整備を進めたICT環境が一層充実した。特に大型電子黒板が全教室に配備されたことにより、授業スタイルの改善が進み、時代に合った学びを促すことにつながった。9・10年生はChromebookを各自所有することでweb上での連絡や課題のやり取り、スケジュール管理などでのデジタル化が一層加速した。また、どのコースにおいてもICTを駆使して長期休暇中も学習指導を止めることなく、12年生においては頻繁な進路相談に応じることができ、進路指導の充実につながった。低学年からの工藤塾との業務提携も定着し、着実に成果が上がってきている。本校の特色の1つになったサレジオメソッドは5年目に入り、生徒主体の活動も軌道に乗ってきた。幅広い自由な選択肢から生徒自らが自分の進むべき道を探り、進路に合わせた学びを深めることは、最終学年で志望動機を固める際に生かしている。各種検定で引き続き多くの合格者を出しているほか、暗記中心型から探求型の学びに移行しつつあり、調べたり考えることはもとより発信する力の育成も進んでいる。推薦希望者全員に課しているエントリーのプレゼンなどで、そうしたプレゼン力の着実な向上がうかがえる。	A	・エグゼ、ソフィア、フロンティアなどのコースに対しても平等な環境で学校生活が送れる様にして頂きたい。どのコースを選んで、そのコースを誇りに思えるよう先生方、保護者、生徒達が平等な考えを持って接することが出来るようになって欲しい。 ・高校の進学実績は素晴らしいものがあり、生徒募集にも表れていると思うが、同時にミッションスクールドボスコの予防教育法の土台の上に教育の原点を置いてやさしく思いやりのある心を育ててもらいたい。

- 令和3年度学校評価（高等学校）-

10	安全管理	生徒の健康・安全を守るために、通学・防犯・保健の適切な指導や施設管理が行われている。	B	B	・学校側の更なる努力を期待する。
11	校務分掌	教職員がそれぞれの職務や担当する役割に対し、責任を持って取り組んでいる。	A	A	自己評価に同意
12	行事運営	校内外で行われる学校行事は教育目標に照らして十分にその役割を果たしている。	B	B	自己評価に同意
13	管理運営	学校組織の管理運営系統が明確で、役割分担や協力体制が整っている。	A	A	自己評価に同意
14	施設・設備	本校の施設、設備は生徒が生活する上で快適な環境として管理・整備されている。	B	B	自己評価に同意
15	課外活動	放課後の部活動や生徒会活動を通じ、教師が常に生徒と「共にいる」よう努めている。	A	A	・サレジオメソッドなどでの校外での活動も新聞記事で目にする機会が増え、生徒が社会に関心を持ち活発に活動出来ているように感じる。
全般、総合評価			A	A	・「進学実績が伸びていることで校内外の評価も高まり自信とともに一層の向上心が見られるとの自己評価があった。確かにその通りだと感じることも多く保護者としても嬉しく思う。ただ、その一方で生徒間では成績を基にするイジメや足の引っ張り合い、見下し合うような発言など、おそらく成績を重視していくことの負の面なのだと思うが、子供達の抱えるストレスからの行動も増えているように感じる。せつかくのカトリック学校としての校風がこのようになり悲しく残念に思う。高い進学実績の裏で人間関係でもストレスを抱えやすい状態になっていく子供達の気持ちにサレジオらしい教えでもっと寄り添って行って頂けたら安心できるのだが。

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

【評価点】

- A: 十分に成果があった
- B: 成果があった
- C: 少し成果があった
- D: 成果がなかった

- 令和3年度学校評価（高等学校）-

今後に向けての考え方(学校関係者評価を受けて)

進学実績の向上や、学習環境の整備について高評価をいただき大変ありがたく思います。同時に本校の精神的支柱であるキリスト教精神、ドン・ボスコの教育法を保護者の皆様も大変よくご理解して下さい、サレジオならではの人間教育に期待されていることに責任を感じます。保護者の皆様からお預かりしている大切な宝である一人ひとりの生徒が、キリスト教ヒューマンズを身にまとい、豊かな人間性をはぐくむことができるよう、教職員全員でアシステンツァに努めてまいります。週に一度の宗教の授業や宗教行事の時だけでなく、ドン・ボスコが少年たちを導いたように、日常のかかわりの中で常に愛されていると生徒たちが感じられるような同伴を大切にします。そして生徒たちがコースや学年、クラス、部活やメソッド、選択科目などで、どこに所属しようとも、各自が持つ特長をその場で最大限に伸ばし、誇りをもって満足感を得られるような指導に当たるよう努力いたします。幼小中高のどこから入学されても、卒業時点で、生徒本人と保護者の皆様のどなたもが納得できる進路の達成こそが大切ですので、多様な進路へ向けての柔軟な指導にはこれからも一層力を入れてまいります。